

ハッサン・バイエフ医師 再招聘活動(2008.01.31.-04.01.)の報告



チェチェンの子どもたち日本委員会(ハッサン・バイエフを呼ぶ会)

埼玉医科大学総合医療センターの同僚医師たちと

はじめに

1994年から続いているロシア・チェチェン戦争で、2000年にアメリカに亡命するまでチェチェン人外科医ハッサン・バイエフ医師は、敵味方を区別することなく、また兵士、市民を区別することなく、戦争に傷ついた多くの人びとに治療の手を差し伸べてきました。その半生は、著書「誓い チェチェンの戦火を生きたひとりの医師の物語(アスペクト刊)」で良く知られております。彼は、アメリカ亡命後も、NPO 組織「チェチェンの子どもたち国際委員会(ICCC)」の議長として、主にチェチェン国内に残った人びと、とりわけ未来を担う子どもたちへの支援を続けてきました。2005 年末、彼の著書に感動した人びとを中心にバイエフ医師を日本に招いて話を聞こうという機運が高まり、それまでチェチェン支援運動を続けてきたチェチェン連絡会議のメンバーも加わった有志の組織として「ハッサン・バイエフを呼ぶ会」が2006年初めにつくられました。バイエフ医師は、チェチェンの人びとへの支援を訴えるため、2006年11月に、ハッサン・バイエフを呼ぶ会の招きで2週間の来日を果たし、精力的に講演・交流活動を行い、その際、日本における最新の先端医療技術を是非とも学びたいという希望を出されました。この希望を何とか実現しようと、様々な方々が、2006年12月から努力して下さいました。その結果として、2008年2-3月に2度目の来日が実現したのです。二つの来日の間には、3度にわたって、故郷チェチェン国内に戻って、荒廃した医療環境の改善の路を探っております。2008年の訪日にあたっては、ロシア国内での医師活動に本格的に復帰するのに必要な、最新の形成外科医療へのトレーニングを2ヶ月にわたって川越市の埼玉医科大学総合医療センター美容外科・形成外科診療科で受けたほか、1ヶ月間、レーザー医療のトレーニングを東京信濃町にある大城クリニックと日本医用レーザー研究所で受けました。これらの医療機関の諸先生・関係者の惜みないご協力には、心より感謝するものです。その中で、既にバイエフ医師は、今秋11月中旬に東京都下で開催される日本レーザー医学会年次総会に特別講演者として招かれることも決まっております。

医療研修

日本の医師法の規制でバイエフ医師は患者に触れることを許されませんが、埼玉医大医師チームに加わり、手術室で、つぶさに手術の状況を見守りました。美容外科・形成外科の手術は主に月・火・木曜日に行われますので、水曜日を大城クリニックでのレーザー医療トレーニング、そして、金曜日は、アメリカでは遂にチャンスに恵まれなかったということで、放射線科のCTスキャン診断技術などの見学にあてました。バイエフ医師は、総合医療センター研修医宿舎を提供され、その集会室に置かれたコンピューターを自由に使用でき、skype を通じて、アメリカ・ロシア・チェチェンをはじめ、世界各地への通信連絡を快適に行え、彼が議長を務めるチェチェンの子どもたち国際委員会(ICCC)と、国際医療支援組織オペレーション・スマイルの活動の一部を日本の私たちが支えることになりました。日本の同僚医師との交流で、ロシアともアメリカとも違う、医療のディテールをつぶさに見られ、大いに刺激となり、沢山の資料も入手できたと、バイエフ医師は語っています。これらの成果は、バイエフ医師の今後の活動に計り知れない質的飛躍をもたらすものと期待しております。

講演活動

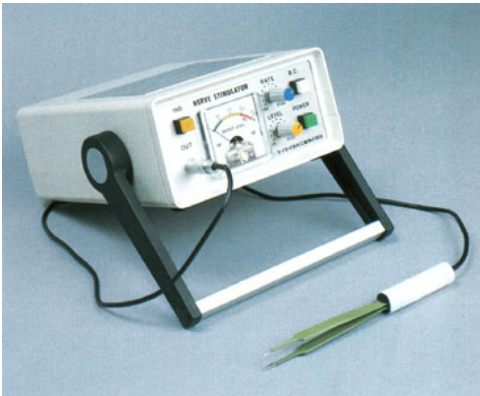


この滞在期間中の、主に休日を利用していただき、各地での講演活動が各地の宗教団体、大学、人権団体、平和団体などや、有志の方々のご協力により組織されました。東京での共催団体として講演会を支え、また全国各地で会を持って下さったアムネスティ・インターナショナル日本のみなさんには深く感謝いたします。いわき、仙台、東京、水戸、札幌(2箇所)、京都、大阪、山口そして非公開での川越と全国での 10 箇所に及ぶ、公開・非公開の講演会を通じて、バイエフ医師は、ロシア・チェチェン戦争下での戦場

医師としての活動を語るとともに、最近のチェチェン国内の戦争被害・医療などの復興の近況を報告し、将来の課題として、独自の子どものための形成外科センターの建設の重要性を訴えました。講演の中では、最近2年間にわたって、急速に戦災廃墟の撤去が進み、首都グローブヌイの様相が大きく様変わりした事が指摘され、その一方で、まだまだ医療の復興は立ち遅れており、新たに産まれてくる子どもたちの中には、先天的な障害を持つものが極めて多いことが指摘されました。また、初回来日以後、アメリカでもハーバード大学小児科病院形成外科でのトレーニングとオペレーション・スマイルの訓練・手術ミッションに参加し、南ロシア、タガンログでのミッションにはチェチェンからの 20 組の口唇口蓋裂障害児母子の参加を実現し、自身の形成外科医復帰を果たしたこと、今秋には、首都グローブヌイでのオペレーション・スマイルの大規模ミッションを計画していることも報告されました。全体を通じて600名近くの方がたが、講演会や記者会見・送別会などに足を運んで下さいました。これらの講演会については、多くのマスコミを始め、いろいろなメディアを通じて沢山の方々が紹介して下さいましたことに、お礼を申し上げます。講演会は時間調整が出来ず実現しませんでした。松本に日帰りで行き、市長に再選された菅谷昭先生とお目にかかり、安曇野の県立子ども病院の見学が実現したことは、今後の交流の足がかりができたものと思われま

拠金など

バイエフ医師招聘費用の捻出、これらの講演会の成功とさらには、チェチェンの心身が傷ついた子どもたちへの救援



資金として多くの浄財が寄せられました。会計報告は別途行われますが、当初の目標数字は達成できたものの、出費もかなりあって、今回の招聘活動に要した費用の全てを十分に埋めるには至りませんでした。しかし、寄せられた浄財の一部から、バイエフ医師が今回の研修の中で出会い、入手を切望した医療用計器「神経刺激装置」をメーカーの協力により、破格の売価で購入することができました。この装置は、体内に走る神経系の発する微弱な電流を検出します。特に顔面などの繊細な神経繊維の位置を容易に確認でき、傷つけることなく、より安全かつ能率的に手術を行うことを可能にするものです。

バイエフ医師は、またレーザー医療については、LLLT(低出力レーザー治療)について集中的に学び、半導体レーザー治療器のチェチェンへの導入を切望しております。LLLTは日本では、既に20年間にわたって開発が進められてきて、世界に誇る成果を上げてきている分野です。我が国では、疼痛緩解やレウマチ治療を始め、さまざまな外科手術や、交通傷害の後遺症の治療などに使われています。傷跡やケロイドの治療にも効果を発揮します。永く続いている戦争で傷ついたチェチェンの多くの人びとの苦悩を軽減するため、半導体レーザー治療器が大いに役立つことは疑いありません、その購入をバイエフ医師は将来の形成外科センター建設への第一歩と位置づけております。バイエフ医師の希望を満たす半導体レーザー治療器の価格は、新品の公称価格は400万円に超えます。今後、メーカーや開発関係者にもご

協力を仰ぐつもりですので、実際の購入価格は、これを下回る可能性もあります。導入後のサポート体制の検討も含め、機種選択には慎重さも必要です。周辺機器の手当なども考えると、拠金の目標数字は、この辺と思われます。

今後に向けて

バイエフ医師は、初回訪日時から、米国のICCCに対応する組織を日本でも組織して欲しいと要望しています。日本のチェチェン支援組織としては、東京では、市民運動としてのチェチェン連絡会議が既に存在し、呼ぶ会の中心メンバーは多くがここに重複して参加しています。しかし、チェチェンの子どもたち日本委員会(JCCC)が、全国的なネットワークで運営されるなら、これまた意義深いと思われます。任意団体から出発して、秋までにはNPO法人として運営できるよう、2回のバイエフ医師来日の成果を生かしつつ、準備を続けてゆきたいと思います。その意味では、今回の再来日、関連する多くの地方講演会や、バイエフ医師自身の医療関係者との交流で、確実な手がかりが出来たかと思えます。今後のますますのご支援をお願い致します。

バイエフ医師は、今後の活動として日本での研修終了とともに、オペレーション・スマイルのベトナム・ミッションのため 4月1日、ホーチミン・シティーに向いました。ホーチミン・シティ郊外の病院で、1日数件の口唇口蓋裂の修復手術を続けました。10日の手術日の間に子ども17件、成人7件の無償手術を行いました。オペレーション・スマイルの派遣医師は彼のみであり、周辺のサポートはベトナムの医療スタッフが行いました。4月15日晩にベトナムを立ち、成田経由モスクワに向かいました。モスクワ到着時には、1時間近くロシア当局による事情聴取がありました。しかし、本人は元気で18日にチェチェンに入って秋のミッションの準備を行います。家族の待つボストンに戻るのは5月上旬の予定です。5月中旬からは南米コロンビアでの長期無償手術ミッション、6月中旬にボストンに戻った後、7月からロシア入り、9月のアメリカ医療関係者26人が参加するグローブズヌイでの大手術ミッションへの最終準備にかかります。その後、いつまたボストンに戻れるのでしょうか？ 11月中旬の3度目の来日まで、全てが順調に進むよう祈らずにはられません。

ハッサン・バイエフを呼ぶ会 共同代表 岡田一男



レーザー治療器購入と招聘費用の赤字解消のために引き続き拠金を募っております。

バイエフ支援資金の募金: 郵便振替:00180-6-261048

チェチェン連絡会議の口座をお借りしています。**通信欄には必ずバイエフと明記して下さい。**

「ハッサン・バイエフを呼ぶ会」は「チェチェンの子どもたち日本委員会(JCCC)」に改組準備中です。

共同代表:

林 克明(フリージャーナリスト)・岡田 一男(映像作家)

連絡先:

〒112-0001 東京都文京区白山2-31-2-101 岡田一男気付
baiev@zau.att.ne.jp

バイエフ医師の活動の近況は <http://chechenchildren.jp/> を通じて随時ご覧いただけます。